

開口カトレーナー KT2016

口を開ける力を数値化。食べる為の継続的なトレーニングを支援します。



持ち運びに便利な専用ケース付



届出番号 13B2X10284000001



開口カトレーナー使用風景

特徴

- 開口力（口を開ける力）を数値化
- 締付けノブで操作性向上
- 電池式になり従来型に比べよりコンパクトに

本製品は、開口カトレーニングを支援する目的で開発された機器です。開口力を知ることで、肺炎の主要因とされている『嚥下機能障害』のスクリーニングや開口訓練の効果判定に役立つとされています。

【開発コンセプト】

本製品は、「口を開く力を実際に測定できたら、訓練効果の指標として使えるのに・・・」、「簡易的に口を開ける力を測る機器が無い!」、そんな声にお応えして開発した「開口カトレーニングを支援する開口カトレーナー」です。これまで開口力は特殊な研究装置でしか測定できませんでしたが、本開口カトレーナーを活用することで、患者宅や介護施設等、様々な場面で、簡便に開口力を測定することが可能となりました。嚥下障害のスクリーニングや開口訓練の効果判定に活用することで、高齢化先進国の日本において、多くの方の『口から食べる』を、未永く支援することが期待されます。

当社（リプト）は「医師達のあったらいいなあ・・・をカタチにする」をミッションに2007年に設立した日本発の医療機器のベンチャーです。

【使用目的】

本製品は、開口カトレーニングを支援する目的で開発された支援機器で、開口力を簡易的に表示（数値化）する機器です。開口カトレーニングの有識者の指導の下、安全にお使いください。

【使用手順】



(1) 頭部キャップを頭に被せます。



(2) 顎カップを顎にあて、調整ベルトを締め、締め付けノブを回転して固定します。



(3) 被験者に口を開けてもらうと開口力が表示されます。

USER VOICE

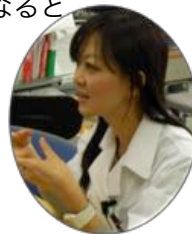
我々のこれまでの研究で、口を最大限に開口させ10秒保持させる訓練を1日に5回、2セット行うことで、舌骨拳上量や食道入口部開大に改善が見られることが分かっています。そこで、開口力を用いて嚥下障害のスクリーニングができないかと考え、研究を行ったところ、男性は3.2kg以下、女性は4.0kg以下になると誤嚥が引き起こってくる事が分かりました。



戸原 玄 先生

東京医科歯科大学
高齢者歯科学分野 准教授

開口カトレーナーは、握力や体重を測るのと同じように、気軽に測定できるのがメリットです。単位もkgで非常になじみがあるものなので、簡単に筋力を知ることができます。また、開口力の訓練は単調で長続きしづらいのですが、目標値を設定できるので訓練を継続させることができ、嚥下機能が良くなると期待できます。



合田 聡子 先生

日本大学歯学部
摂食機能療法学講座

開口筋は口を開けるだけでなく、嚥下時に舌骨喉頭を挙上する筋として重要です。開口カトレーナーは簡単な操作で開口力を客観的に測定することが可能です。言語聴覚士の臨床においても、嚥下障害のスクリーニングやトレーニングの動機付けなど、幅広いシーンで使用することができるでしょう。



福岡 達之 先生

広島国際大学
リハビリテーション学科 准教授

【使用上の注意】

本製品は、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究所 老化制御系口腔老化制御学講座 高齢者歯科学分野 准教授 戸原 玄 先生の指導の下、開発された開口カトレーニングの支援機器です。表示された数値は開口力を示しますが、被験者の体調、測定時の姿勢、取り付け位置、締め付けの程度、ゼロリセットの有無で、測定値が変わる場合があります。本製品の特徴を理解した上でご使用ください。

本製品（KT2016）は医療機器（届出番号 13B2X10284000001）です。

製造・販売元：リプト株式会社
東京都八王子市明神町4-9-1-301
TEL：042-649-3491 / FAX：042-649-3492

ご注文・お問い合わせ
メールフォーム

042-649-3491
<http://kai-kou.com>

<http://kai-kou.com>